

## ◆ 今週のコメント

- ・ レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例あります。本年の累積報告数は、17例で、平成13年～平成19年の同時期(1～12例)と比較すると、最も多くなっています。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は0.39で、過去5年平均値(0.26)を上回っており、増加傾向を示しています。年齢階級別では、5歳及び10歳～14歳で、各5例(31.3%)が最も多くなっています。

## ◆ 今週のトピックス:〈RSウイルス感染症〉

- ・ RSウイルス感染症の報告が4例あり、第33週から報告が続いています。  
詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 6例(喀痰塗抹陽性 2例, 無症状病原体保有者 2例)  
【1月以降の累積報告数 293例(喀痰塗抹陽性 96例, 無症状病原体保有者 29例)】
- ・ 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 17例】

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.63	108
	② 突発性発しん	0.46	19
	③ 手足口病	0.41	17
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.39	16
	⑤ ヘルパンギーナ	0.12	5
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.12	5
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

### 病原体情報

ありません。

### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:〈RSウイルス感染症〉

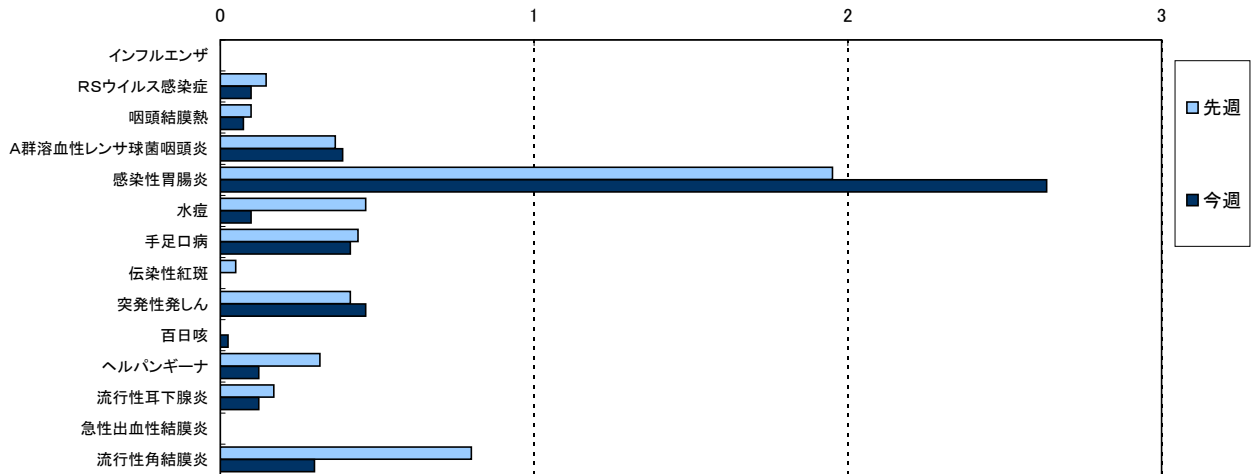
(注) 京都市のデータは、平成20年10月9日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

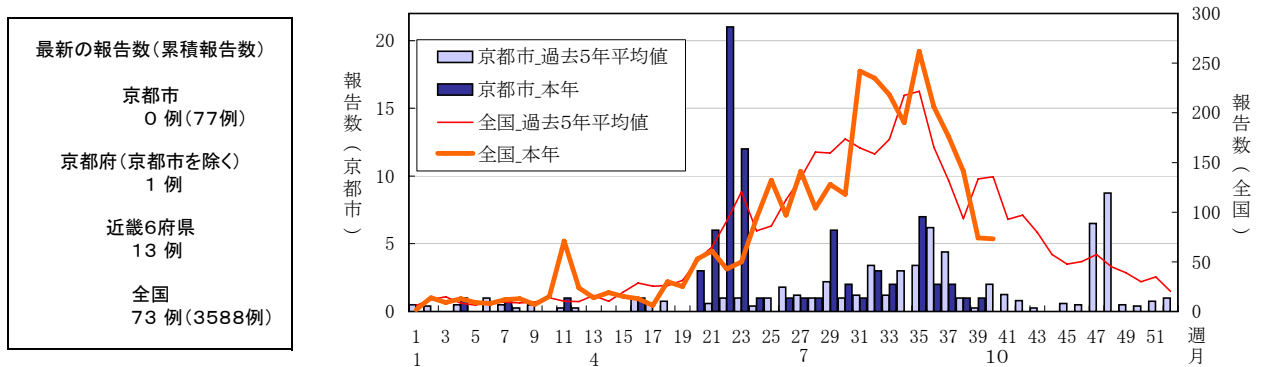
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第40週)と先週(第39週)の定点当たり報告数の比較

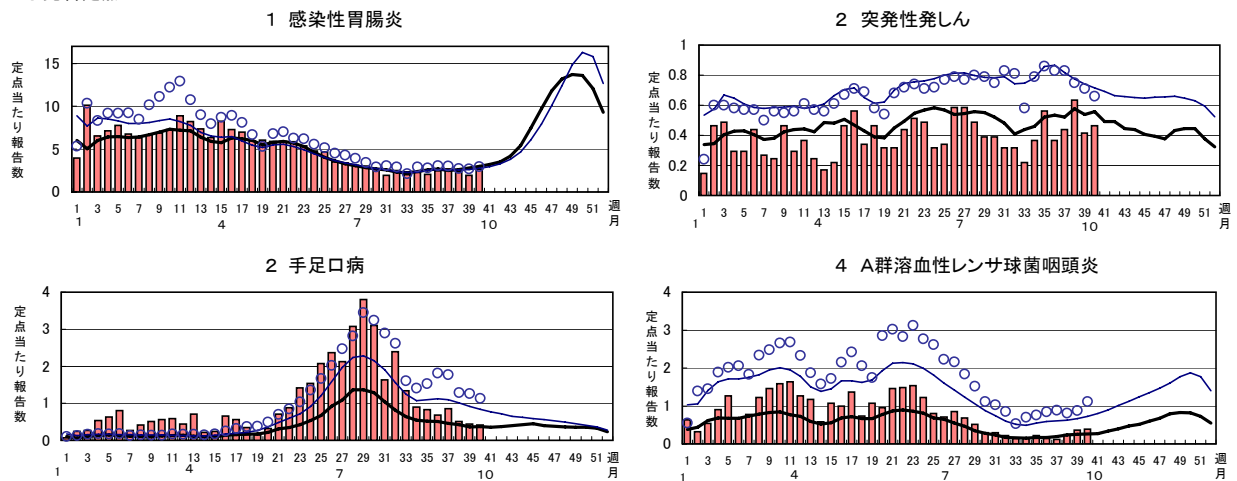


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移



## 3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>

